

## 最近の WIPO の動き (40)

世界知的所有権機関 (WIPO) 日本事務所 \*

### 1. 「世界知的財産の日 (World IP Day)」 2024 日本における記念イベント

毎年 4 月 26 日は、国連の国際デー<sup>1)</sup>の一つとして「世界知的財産の日 (World IP Day)」と定められている。本稿では、4 月 26 日に WIPO 日本事務所が主催した世界知的財産の日 2024 記念イベントについて報告する。

4 月 26 日の世界知的財産の日 (World IP Day)<sup>2)</sup>は、WIPO 設立条約が施行された 1970 年 4 月 26 日にちなみ指定された日である。この日には、毎年異なるテーマが設定され、世界各地でテーマに応じたイベントが開催される他、WIPO でも、クリエイター達をウェブサイト上で多様な言語により紹介するオンラインギャラリーの設置や、動画コンテスト等を実施している<sup>3)</sup>。

2024 年の World IP Day のテーマ「知財と SDGs — イノベーションと創造力で築く地球の未来」に沿って、WIPO 日本事務所は、各界で活躍されている方々による講演、対談等からなる記念イベントを 4 月 26 日に開催した。プログラムや登壇者の詳細はイベント特設ウェブサイト<sup>4)</sup>を参照されたい。

今年の「世界知的財産の日」記念イベントは、東京都イイノホールで実施された。

本イベントは、WIPO 日本事務所長の澤井智毅による、日本における知的財産の課題を踏まえた「世界知的財産の日」記念イベントの意義に関する挨拶で開会した。その後、濱野幸一氏 (特許庁長官) から来賓挨拶、大阪・関西万博の顔としてご活躍の大崎洋氏、WIPO GREEN パートナー企業の代表取締役社長でもある堂脇直城氏、「行列ので

きる法律相談所」などの人気番組でも知られる、アムール法律事務所 代表弁護士の大淵愛子氏から基調講演を賜った。その後、貝印株式会社及びカイインダストリーズ株式会社 代表取締役社長 兼最高執行責任者 (COO) の遠藤浩彰氏と澤井による対談が行われた。

以下、本イベントの主な内容について報告する。

### 2. 来賓挨拶, 基調講演

#### 2-1. 濱野 幸一 氏 (特許庁 長官) からの来賓挨拶

濱野氏からは来賓挨拶の中で、私たちが気候変動などの困難な地球規模課題に直面している中で、SDGs と知財との関わりを議論していくことは極めて重要であると述べられた。また、「知財と SDGs」に関する特許庁の取組として、WIPO GREEN への協力・GXTI (グリーン・トランスフォーメーション技術区分表) などの環境技術に関する取組、ジャパン・ファンド (FIT Japan IP Global) を活用した女性起業家支援などの D&I に関する取組等をご紹介いただいた。

\* WIPO の外部事務所の 1 つ。東京・霞が関に位置する。詳しくは、WIPO 日本事務所のウェブページを参照されたい：

<https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/>  
また、WIPO や WIPO 日本事務所の主要な活動については、ニュースレター (四季報) にて定期配信中：  
[https://www3.wipo.int/newsletters/ja/#wipo\\_japan](https://www3.wipo.int/newsletters/ja/#wipo_japan)



来賓挨拶の様子 (濱野 幸一 氏)

**2-2. 大崎 洋 氏 (大阪・関西万博共同座長, 内閣府知的財産戦略本部構想委員会委員, 一般社団法人 mother ha.ha 代表理事, 前吉本興業ホールディングス会長) による 基調講演**

大崎氏からは、「WARAI NI NEGAIWOO」と題し、SDGs や知的財産にまつわる大崎氏のご活動、2025 年日本国際博覧会 (大阪・関西万博) のテーマについて語っていただいた。

初めに、大崎氏が、吉本興業を始めとしたこれまで取り組んできた活動や現在取り組んでいる活動の中から、地域の伝統文化を発掘し、特に子供たちに還元して地方創生につなげる活動についてご紹介をいただいた。

次に、万博の催事イベントのキーワードである“祭り”も、音楽・意匠・装束・伝統工芸品・振り



基調講演の様子 (大崎 洋 氏)

付けといった様々な伝統的な文化的要素を数多く含んでおり、これらを保護・継承し、新たに創造することは、地方の価値、日本人の美意識、共同体を守り、再生するものであると述べられた。

そして、正解のない世界において、本物を見ることが重要であり、自分の頭で考えること、自分の心で感じるものが重要であり、SDGs という人類共通の困難な課題に対し、独自の発想、すなわち知的財産をもって解決を図るという今年の世界知的財産の日のテーマについても触れられた。

**2-3. 堂脇 直城 氏 (株式会社 JBEC 代表取締役社長) による基調講演**

堂脇氏からは、「地産地消型「Waste to Energy」プロジェクト」と題し、株式会社 JBEC のミッションである持続可能な水素社会の実現に向けた、研究開発や事業展開、それを支える知的財産戦略についてご講演をいただいた。

同社の主要技術は、工場などから排出される産業廃棄物を原料とし、ガス化し水素エネルギーを生産するというものであり、国内実証事業を経て、現在は米国内で商用試作プラントの建設を準備中である。そして、実用化まで道のりの長いプロジェクトを支えてきたのは、各プラントに関わるコア技術を確実に特許で保護する知的財産戦略であった。さらに現在では、大学、AIoT 企業、プラントエンジニアリング企業など様々な機関と組んで、社会課題の解決に向けた協力関係を築いている。



基調講演の様子 (堂脇 直城 氏)

このような協力関係においては、それぞれの立場から技術やノウハウに関する知的財産の提供が行われるため、複合的な知的財産（複合 IP）が生じていること、そのような複合 IP の取り扱いにおいては、所有形態が複雑化することで、特許化・ビジネス化の遅れ、IP の陳腐化が懸念されるという難しさがあると述べられた。

#### 2-4. 大淵 愛子 氏（アムール法律事務所 代表 弁護士）からの基調講演

大淵氏からは、「時代の変化と知的財産」と題し、ご講演をいただいた。

人々の生活を巡る法的課題に日々向き合う弁護士としての立場から、人々の価値観の変化、AI の発展が著しく、時代の変化を実感を目の当たりにしている。人々の価値観の変化の背景には、SDGs の浸透も一因にあり、SDGs の個々の目標を 5 つの P 「人間 (People)」「地球 (Planet)」「繁栄 (Prosperity)」「平和 (Peace)」「パートナーシップ (Partnership)」に分類すると、「人間 (People)」すなわち人権に関するものが最も多く、日本においても人権の意識が高まっているとして、このような時代の変化に伴い知的財産のあり方にも変化が求められることを強調された。2021 年のコーポレートガバナンスコード改訂にて、知的財産や無形資産への投資について、取締役会が実効的に監督を行うべきであり、また、具体的に情報が開示・提供されるべきである旨が盛り込まれたことにも触れ、徐々に



基調講演の様子（大淵 愛子 氏）

変化してきている知的財産への意識の現状を踏まえ、未だ課題も多く残されていると指摘している。

最後に、知的財産が広く人々の生活や仕事に浸透し、SDGs を始めとする社会課題の解決に貢献するものとなってほしい、という期待と激励のお言葉をいただいた。

### 3. 対談

遠藤 浩彰 氏（貝印株式会社及びカイインダストリーズ株式会社 代表取締役社長兼最高執行責任者 (COO)）と、WIPO 日本事務所長 澤井による対談では、「経営方針 “DUPS”<sup>3)</sup>、KAI が知財を重視する理由」と題し、以下のようなテーマについて詳しくお話を伺った。

#### 3-1. 同社の歴史と知的財産との関わりについて

貝印の創業はポケットナイフから始まり、創業の精神である「野鍛冶の精神」に基づき、顧客の声に耳を傾け、時代が求めるものに積極的に挑戦、企画・開発・生産を行ってきた。現在では、カミソリを始めとする様々な刃物製品から、美粧用品、家庭用品、そしてそれらに関連するコト事業（サービス事業）も手掛けている。

その中でも、カミソリは、創業者から続く、KAI グループを語る上での DNA 的な事業であり、2 代目社長は、当時、カミソリの分野において世界的に見ると資本力の大きい競合外資企業が存在していたことから、対等に対峙するためには特許（知財）が重要である、ということを常日頃から口にしてきたそうだ。3 代目社長の代でもその精神を受け継ぐと共に、世界初となる 3 枚刃替刃式カミソリの開発・発売に代表されるように、常に業界の先駆けとなることを模索した商品開発を行い、新製品を世に送り出してきた。

このように、KAI らしさを体現する武器、手段として、特許（知財）を積極的に活用していこうとする企業文化、土壌が長い時間をかけて会社内に自然と醸成されてきた歴史的背景があるということをお話しいただいた。

### 3-2. 中期経営戦略における知財の重視について

しかしながら、知財活用が長い間掲げられていたものの、実態や現実とのギャップが一部で生じていた。そこで、4代目である遠藤氏が、今後の経営戦略、自社の持続可能な成長を考える上で社内における知財の位置づけを再定義した。

持続的な事業運営のためには利益の追求が必要であるが、SDGsの浸透により、会社が「社会、顧客に必要とされる・求められる」存在であることがより一層重要となっている。そのためには「オンリーワン」、自社の優位性・特異性をはっきりとさせる「差別化」が必要である。その証明とも言えるのが「知的財産権」であり、それを活用して自社の特長（強み）として発揮し、顧客や社会から選好される製品開発につなげるためには、知財へのリソース投入は、憎むべき“コスト”ではなく、不可欠な“投資”であり、当然の生存戦略ではないかと考えている。

具体的には、経営戦略本部の傘下に知的財産部を再編し、社長自ら知財の担当役員と毎週意見交換を行うことでといった取組により、企画・開発・デザイン・広報宣伝とも連携した知財活用の好循環が根付いてきた。自社ショールームの入り口に知的財産に関するコーナーを広く設けたのもその一例である。

以上のように、長年かけて育んできた知財活用の素養・ベースを活かし、時代の要請に応えるべく、中期経営方針に大々的に組み込むという結論に至ったとのお話をいただいた。

### 3-3. 経営方針“DUPS<sup>3</sup>”について

2000年代初頭、3代目の時代に商品開発基本方針として掲げられたのがUPS（Unique, Patent, Safety）であり、その後、2010年頃、D（Design）とStoryが追加され、DUPSに進化した。ここにも、同社が知的財産を重視する姿勢が表れている。さらに近年、Sustainabilityを加えてDUPS<sup>3</sup>に進化させ、この追求こそが自社の存在を際立たせる（持続可能な成長を実現・継続できる）という確信のもと、事業運営を進めている。

### 3-4. グローバル化、SDGsについて

同社は、海外での売り上げが半分を占めており、グローバル化に対応し外部との共創・協働も積極的に行っているとお話、紙製カミソリをはじめとするSDGsに資する製品の開発も進めているとお話もいただいた。そのような時代の変化に合わせた取組においても、常に、知的財産を意識されている社長の思いが印象的であった。WIPO GREEN パートナー企業となったのも、このような同社の姿勢を示し先頭に立って取組を進めていきたいとの思いからだそうだ。

以上のように、社長自ら、貝印の企業としての歴史、知的財産に関する思いや実際の活動について、詳細に語っていただき、当日ご参加の皆様からも好評を博した。



対談の様子（下段左が澤井所長，右が遠藤社長）

## 4. ビデオ上映：世界知的財産の日 2024 ユース動画コンテスト受賞3作品発表

WIPO 本部では、世界知的財産の日に合わせて、今年のテーマに沿った動画を若者たちから募集し、テーマの表現力、創造性、オリジナリティなどを基準として審査が行われた<sup>5)</sup>。今年の実賞作

品は、以下の3作品が選ばれた。時差の関係から、同会場での公表が、世界での最初の発信となった。

- ・ 1位：「ストーリーテリングと知財を使って  
アフリカの子供たちに初等教育を」  
(イダミエビ・イラミナ・エレミーさん  
(ナイジェリア))
- ・ 2位：「[触れる] アート～地平を広げる～」  
(ロバータ・サルダンハ・アルベスさん  
(ブラジル))
- ・ 3位：「自分のアイデアを大切に」  
(アレクサンダー・ペトロフさん  
(ブルガリア))
- ・ 一般投票賞：「カウマンのパティック」  
(ハウンダ・ライル・ザハラさん  
(インドネシア))

プログラムの終盤には、本ビデオの上映も行われ、世界のユースたちが知的財産にまつわる様々な活動をしていることに思いを馳せることができた。



ビデオ上映の様子

## 5. おわりに

今年のイベントは、産官学から多くの方々に参加登録をいただき、ゴールデンウィーク直前でありながらも、中学生から、有識者、機関や企業や組織トップを含め、200名を超える方々に直接に会場にまで足をお運びいただいた。

前述で紹介したホール内でのメインイベントの他、会場ホワイエにおいては、知的財産とSDGsの関連事例やWIPOの取組を紹介する分かりやすいポスターの展示や、いくつかのSDGsに貢献可能なテクノロジーの事例であるアバターロボットの設置、大崎様のご講演に関連し、大阪・関西万博の公式キャラクターであるミャクミャクの登場もあり、休憩時間にも多くの来場者でにぎわった。

リアル開催ならではの数々の展示の観覧や実物とのふれあいによって、皆様が知的財産やSDGsを今まで以上に身近に感じていただけたら幸いである。

また、イベント後のレセプションには、知的財産分野を代表する方々も含め多くの方々が参加され、最後まで参加された多くの御登壇者の皆様と共に、日本を、世界を、そして知的財産制度を大いに語っていただいた。



休憩時間のホワイエの様子  
(左がミャクミャク、右がアバターロボット newme)



レセプションにて開会の挨拶と乾杯のご挨拶をする  
Japio 細野理事長 (左) と発明協会 岩井副会長 (右)

WIPO 日本事務所は、引き続き知的財産の普及のため各種の取組を実施していく予定である。ぜひ今後の活動にもご注目いただきたい。

(注)

- 1) 国際デーに関する国際連合広報センターウェブサイト:  
[https://www.unic.or.jp/activities/international\\_observances/days/](https://www.unic.or.jp/activities/international_observances/days/)
- 2) 関連する WIPO ウェブページ (日本語) : <https://www.wipo.int/ip-outreach/ja/ipday/index.html>
- 3) World Intellectual Property Day WIPO 本部のホームページ : <https://www.wipo.int/en/web/ipday/2024-sdgs/index>
- 4) WIPO 日本事務所主催 「世界知的財産の日記念イベント 2024 年 4 月 26 日 (金) @ イイノホール」 特設ウェブサイト : [https://www.wipo.int/meetings/ja/2024/wjo\\_ipday.html](https://www.wipo.int/meetings/ja/2024/wjo_ipday.html)
- 5) <https://www.wipo.int/ja/web/ipday/2024-sdgs/vid-eo-competition>

(原稿受領日 2024 年 5 月 7 日)